

水稻・大豆 栽培情報 8月号

令和8年8月20日

JA みづま

久留米普及指導センター

【水稻】

1. 生育概況

現時点で分けつが多くなっているものの、概ね生育は順調です。

出穂期前後 14日間（幼穂形成期～開花期）は水が切れないようにし、開花期以降は間断かん水を徹底し、根の活力維持に努めましょう。

2. 病虫害防除

- ・海外飛来性害虫のウンカ類、コブノメイガは、県内に6月21日からと7月5日からの2回、断続的に飛来があったと推定されています。今後も高温で経過する予報であり、発生に適した条件が続くと見込まれるため、適期防除の徹底をお願いします。
- ・カメムシ類の発生量が多く、水稻への加害が懸念されます。対策として**水稻の出穂14日前までに**、畦畔の除草を実施し、カメムシの発生源をなくしましょう。出穂直前での除草では、雑草に生息していたカメムシを水稻へ追いやることになるので注意しましょう。

＜イネカメムシ＞

近年、生息地域が拡大しており、水稻の収量・品質へ**深刻な被害**をもたらすカメムシです。出穂期頃の加害により、不稔や斑点米が発生します。

特に雑草が多い圃場では、すでに発生が確認されているため、圃場で確認した場合、直ちに防除を行ってください。**出穂期**（圃場全体の5割が出穂した日）、および**出穂期の14日後**の防除が効果的です。



イネカメムシ成虫



イネカメムシ幼虫



不稔の穂



斑点米

【大豆】

1. 生育概況

適期に播種が行われたものの、梅雨明け以降降雨がなく、乾燥傾向が続いているため、出芽不良や生育抑制が確認されています。今後も乾燥対策を実施し、病害虫の発生状況に注意して適期防除を行いましょう。

乾燥対策	内 容
畝間かん水 ※ <u>水が十分にある地域のみ</u>	① 畝間に水が流れる溝をつくる 中耕培土を実施していないほ場（平畝で溝がない場合）は、乗用管理機等で簡易的に株元へ土を寄せる、あるいはトラクターや乗用管理機でほ場に入ってタイヤ跡で溝を作るなど、畝間に水が流れるようにしましょう。
	② 夕方以降に実施する 日中は気温が高く、水分が蒸発しやすいだけでなく、水温が上昇することで大豆の生育が抑制される恐れがあるため、気温が下がる夕方以降に実施しましょう。
	③ かん水後は速やかに落水する 畝間全体に水が行き渡ったら入水を止め、速やかに落水しましょう。 【注意点：中耕培土】 畝間かん水できない地域では、中耕培土は乾燥を助長するため、降雨が見込まれるまで実施は控えましょう。
	  <畝間かん水> <トラクターのタイヤ跡を用いた畝間かん水>

2. 病害虫防除

一部の圃場でハスモンヨトウによる白変葉が確認されています。気温が高く、降雨が少ないため、発生量が増加することが懸念されます。ふ化幼虫が群集している白変葉があれば早めに手取りで除去し、目立ってきたら、下記薬剤で防除を行ってください。（R8年8月17日現在）

防除時期	対象	薬剤名	希釈倍数	散布液量 (10a 当たり)
8月下旬	ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤	2,000 倍	100～300 ℓ
			8～16 倍 (無人航空機)	0.8 ℓ



白変葉